

えりも以西海域で初めて採集されたマツカワ天然稚魚

北海道えりも以西太平洋海域におけるマツカワ人工種苗 100 万尾放流開始（2006 年）から 10 年が経過しました。放流効果は顕著であり、全道のマツカワ漁獲量は現在 150 トン以上に達しています。しかし、マツカワ資源が北海道に本格的に再定着するためには、放流による直接効果だけではなく、放流魚を起点とする天然の再生産が増加する必要があります。このため、栽培水産試験場および釧路水産試験場では 2014 年から天然稚魚の分布調査を行ってきました。その結果、えりも以東海域の浜中町沿岸では継続的に天然稚魚が採集されていますが、えりも以西海域では採集されていませんでした。なお、マツカワの産卵場は本州の常磐沖であり、仔魚は北海道沿岸に輸送され、着底・成長すると考えられています。

○2017 年度調査実施状況

2017 年 8 月 1 日、様似町西町およびえりも町歌別の砂浜水深 0~1m において、小型地曳き網をそれぞれ 2 回および 4 回、人力で曳網しました（写真 1）。曳網距離はそれぞれ約 100m でした。調査地点の水温・塩分を測定し、採集されたカレイ類稚魚等は種別に尾数を記録しました。

調査の実施に当たり、日高中央漁協、えりも漁協、日高管内栽培協議会、日高指導所および日高振興局の協力を得ました。なお、北海道における 2017 年のマツカワ人工種苗放流は本調査実施後の 8 月 10 日以降に行われたため、採集された 0 歳魚は天然発生と判断されます。

○調査結果

調査地点の水温・塩分、採集されたカレイ類等を表 1 に示しました。えりも町歌別で全長 42.5mm のマツカワ天然 0 歳魚が 1 尾採集されました（写真 2, 3）。確実な標本が残された記録としては、えりも以西海域で初めてのものです。人工種苗の成長を参考にすると、この稚魚は



写真 1 調査風景（左：様似、右：えりも）

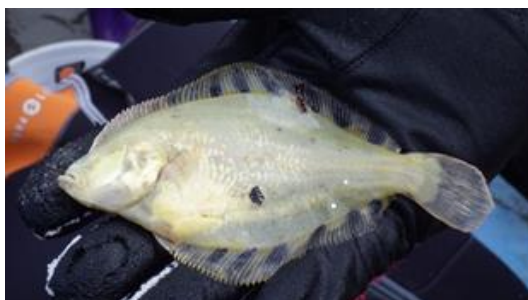


写真 2 採集されたマツカワ稚魚（左：放流 1 歳、右：天然 0 歳）

およそ 100 日齢程度と推測されました。他にはマツカワ放流 1 歳魚，又マガレイ稚魚等が採集されました。天然 0 歳魚の胃内容物を観察したところ，アミ類（2 個体）およびカイアシ類（118 個体）を摂食していました。

表 2 に 2014 年度以降の調査結果を示しました。浜中町沿岸では釧路水産試験場により 2017 年 7 月 20 日に調査が行われ，計 6 回の曳網で 6 尾の天然 0 歳魚が採集されました。

○展望

水産試験場のマツカワ研究は天然魚がほとんどいなくなった状態からスタートしたため，これまで自然界から多くを学ぶことはできませんでした。今回，放流海域における天然稚魚の棲息が明らかとなったことで，今後は天然魚の水揚げも増えてくると予想されます。これら天然魚の情報を収集することによって，放流による再生産効果だけでなく，マツカワ本来の生態が改めて明らかになることを期待しています。

表 1 2017 年度マツカワ天然稚魚発生調査結果

調査日	場所	水温	塩分	曳網回数	マツカワ		その他カレイ類稚魚				稚魚その他
					天然0歳	放流1歳	ヌマガレイ	スナガレイ	クロガシラガレイ	イシガレイ	
2017/8/1	様似町西町	16.71	31.94	2	0	2	1	0	1	1	チカ、ウグイ、イカナゴ
2017/8/1	えりも町歌別	14.81	30.04	4	1	18	14	13	6	0	チカ、シラウオ、ウグイ、ボラ

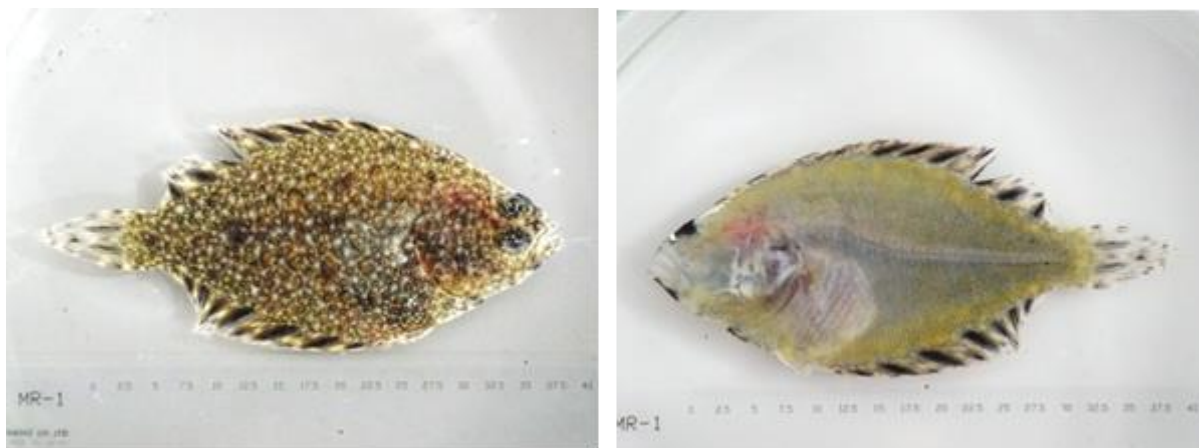


写真 3 えりも町歌別で採集された全長 42.5mm のマツカワ天然 0 歳魚（左：有眼側、右：無眼側）

表 2 2014 年度以降のマツカワ天然稚魚発生調査結果（大津・浜中は釧路水試による）

	苫小牧		様似		えりも		大津		浜中	
	曳網回数	採集尾数	曳網回数	採集尾数	曳網回数	採集尾数	曳網回数	採集尾数	曳網回数	採集尾数
2014(H26)	8	0	-	-	-	-	8	0	17	3
2015(H27)	5	0	6	0	-	-	24	0	17	5
2016(H28)	-	-	6	0	6	0	10	0	17	0
2017(H29)	-	-	2	0	4	1	-	-	6	6